

岩場案内《新岩》

1. 経緯

1) 前 活用期

新岩は古い岩場であるが、クライミング黎明期には関西地方の主な岩場はロックガーデン、堡壘岩、百丈岩、不動岩などであった。その後、1960年代に国鉄福知山線の車窓から武庫川対岸に見える岩場に着目し登攀対象とされた。もともと名前がなかったのが既成の岩場に対して「新岩」とネーミングされたと思われる。※新岩の上部（長尾山霊園付近）には「桜小場」という地名の集落があったらしいが、現在はその形跡はない。

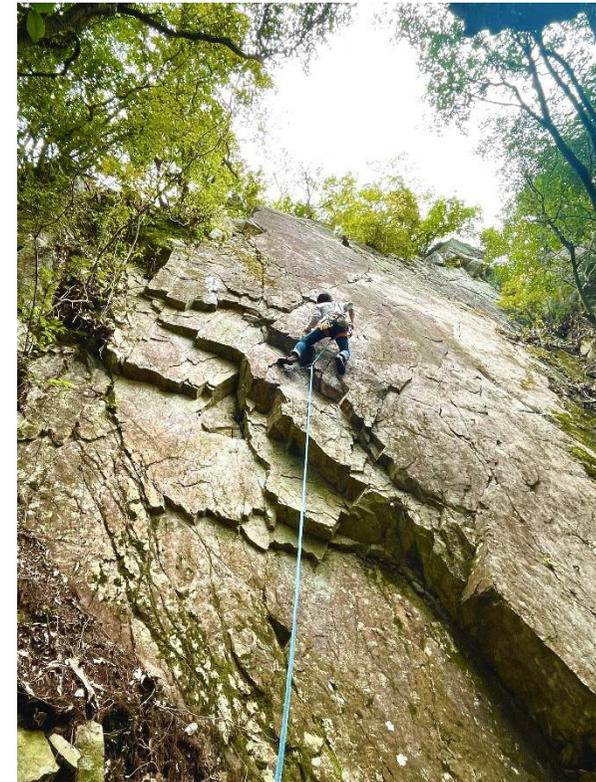
新岩が頻繁に登られていた時期はアルパインクライミング全盛の時代であり、ルートも「マルチピッチ」が中心であった。この付近の武庫川沿いの山腹に高さ10m～30m、幅10m～80m程度の岩場が数多く点在しているため、それらをマルチピッチとして継続的に登っていた。この頃、同岩場を登っていた方の話では地主には岩を登ることは問題視されていなかったが、秋季にマツタケが収穫できる時期の立ち入りは快く思われていなかったということである。※現在はマツタケの収穫は行なわれていない。

2) 武庫川ダム計画

1989年に武庫川の治水対策として「武庫川ダム」を建設する計画が立案された。この計画ではダムは生瀬上流（東高座岩の真下）に設置され、堰堤の高さは75mでダム湖は武田尾まで及ぶ予定であった。このダムが建設されて湛水された場合、新岩はほぼ水没して武田尾までの森林は枯死するとされていた。事実、堤体の設置予定地の住居は立ち退きが完了している。その後、ダム建設反対や治水事業の見直しがあり、2010年にダム計画の中止（継続審議）となり、現在に至っている。

3) 現状

新岩には1970年代に多くのルートが築かれたが、それらのほとんどがハーケンやリングボルトによる人工登攀用ルートであった。その後、正面壁にステンレス製のハンガーによるフリールートが散発的に設置されたが、新しめのルートでも設置後10年は経っているように思われる。また大規模な土砂崩れによって新岩に至る道がほぼ全壊となり、岩場を訪れるクライマーも途絶えていた。このため岩壁やそのとりつきに繁茂した樹木を除き、新しいアクセス道を設置して新岩復活に至った。



奥壁 フォグカッター

岩場へのアプローチ

- ・長尾山霊園のロータリーを過ぎた先の左側にスペースがある辺りに車を停める。**※道路に対して直角に停めること。**
- ・少し霊園のほうに戻ると、右手の自然林の中に細いハイキング道があるのでそれを辿る。200m程度進むとY字型の分岐路があり、右側に進む。
※左に行くと東高座岩
- ・道は次第に下降路となり、展望の開けた場所からガレ場に入る。
- ・ガレ場の末端辺りから右側に入るとフィックスロープがある。林間のつづら折り状の道を行き、フィックスロープで溪谷に降りる。その谷の対岸に上がり、左手に進むと岩場に至る。
- ・行きは20分、帰りは30分程度。

